世界の農業・農政

ベトナムのコメ輸出拡大の背景

国際領域　主任研究官　岡江　恭史

現在ベトナムはタイ・インドと並ぶ世界有数のコメ輸出大国です。インドのコメ輸出規制等によって国際米価が高騰した2008年には、ベトナムも輸出規制を行いましたが、同じくインドのコメ輸出規制が行われた2023年には輸出規制は行わず、過去最高のコメ輸出量・輸出金額を記録しました。その背景について解説します。

1．はじめに

ベトナムはかつて旧ソ連型中央計画経済体制下にありましたが、1980年代から経済自由化・対外開放政策（いわゆるドイモイ政策）を採用したことによって、その後高い経済成長率を示しました。農林水産分野では、近年はタイ・インドと並ぶコメ輸出大国であり続け、2023年には過去最高のコメ輸出量・輸出金額を記録しました。

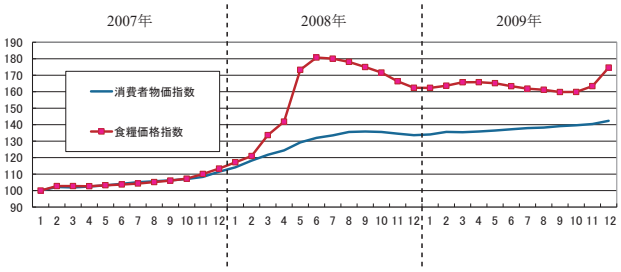
2．国際米価高騰への対応－2008年と2023年の対比－

2007年後半から国際米価が高騰したことからインドがコメの輸出規制を行い、そのことがさらなる国際米価高騰を招きました。第１図は、2007～09年におけるベトナム国内の消費者物価指数と食糧[注]価格指数の上昇を、2007年１月を100として示したグラフです。2007年10月頃から消費者物価指数も食糧価格指数も上昇し始めていますが、特に食糧が2008年４～６月に急騰しています。2009年12月時点での消費者物価指数及び食糧価格指数は2007年１月から42%増・75%増と高値を維持しています。食糧価格が高騰に至った最大の理由は、主食であるコメが重要な輸出産品であるために国際価格と国内米価とが密接にリンクしていることです。

米価高騰に対処するため、2008年３月25日には第78号政府通達によって６月末までの間は新たにコメ輸出の契約は行わないことを決定しました。第２図に見るように、この輸出規制によって、国内米価の上昇が抑えられた反面、ベトナムの輸出米価格が急上昇し、コメの国際指標価格となっているタイ米の上昇につながりました。さらに、2008年４月18日には、第391号首相決定が公布され、水田専作地の転作の原則禁止の方針が打ち出されました。

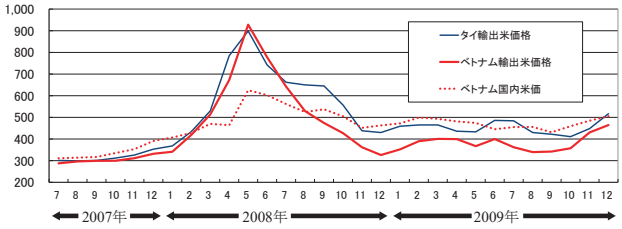
物価高騰の混乱を踏まえて、2008年７月に第10期ベトナム共産党中央執行委員会第７回総会において農業問題が議論され、2010年及び2020年までの農業政策の目標を示した「農業・農民・農村に関する中央執行委員会第26号決議」が８月５日に公布されました。さらにこれを受けて、政府の今後の食糧政策の方針として翌2009年12月23日に「国家食糧安全保障に関する政府決議63号」が公布されました。これは、ドイモイ以降の農業の市場経済化・近代化の方針を引き継ぐ一方で、国家食糧安全保障を農業政策の最優先課題にしたものです。

2007年からの国際米価高騰期と同様、2023年にもインドがコメの輸出規制を行いましたが、ベトナムは輸出規制を行いませんでした。そして同年のベトナムのコメ輸出は、輸出量（8,338千t、前年度比17.4%増）・輸出金額（4,816百万米ドル、前年度比39.4%増）ともに過去最高を記録しました。さらに、2023年の消費者物価は前年度比3.25%増、食糧価格は6.85%増と2008年前後に比べて落ち着いていました。この両時点での違いは何に起因するのでしょうか。



第１図　2007～09年におけるベトナム国内の物価上昇

資料：ベトナム統計総局ウェブサイト。
注．2007年１月を基準（100）とする指数。



第２図　2007～2009年におけるタイ輸出米価格・ベトナム輸出米価格・ベトナム国内米価

資料：価格はAgromonitor（2010）、Agroinfo（2009）より。
注．輸出米価格は両国とも25%砕米価格。ベトナム国内米価は、メコンデルタのコメ生産地カントー市（第１図の57）における通常米（Gia te thuong）価格。単位はいずれも米ドル/t。

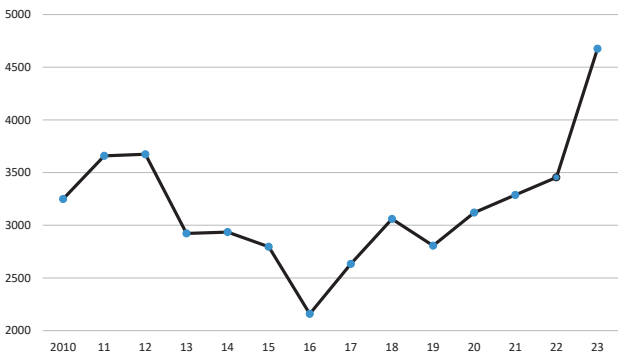
3．コメ輸出拡大の背景と近年の状況

2023年には、2008年のような国内の混乱が起こらなかった最大の原因は、国内のコメ生産量が増加して十分な輸出余力があったからです。ベトナム統計総局によると、2008年の生産量が3,873万トンに対して、2023年は4,350万トンと激増しています。さらに同年のベトナムのコメ輸出は、輸出量だけではなく輸出金額も過去最高を記録しました。

この背景には、コメ生産・輸出の構造を2008年当時と大きく変えた政策が存在します。2013年６月にベトナム政府は「高付加価値化と持続可能な発展に向けての農業部門再編の計画承認についての政府首相決定第899号」を公布し、必要な生産量を維持しながら農地の効率的な活用（水田を他の農作物へ転作）を推奨するようになりました。さらに2017年７月には、「2030年を見据えた2017～2020年段階のベトナムのコメ輸出市場の発展戦略の策定に関する第942号政府首相決定」を公布し、全体のコメ輸出量の目標値のみならず輸出市場ごと品種ごとの具体的な目標値も定められました。

第３図は2010年以降のベトナムのコメの輸出額を示したものです。2013年以降は低迷していましたが、2016年を底に回復して、2023年には2012年の記録を更新して過去最高の輸出額を達成したことがわかります。この回復の背景に、輸出米の品種の多様化が存在します。ベトナム人は日本人と同様に食事の主食として白米を食べますが、フォーや春巻きのライスペーパーにも白米が使われます。また香り米を好んで食べる人もいますが、通常は白米より値段が高いので高級品扱いです。もち米は、もち・ちまき・おこわといった主に祝いの席で食べられる食事のほかに、伝統的なデザートのチェーなどにも使われます。輸出米はかつてほぼ白米だけだったのが、最近はもち米や香り米の比率が上がってきています。

第１表は、2010年・2017年・2023年におけるベトナムのコメ輸出量における白米・もち米・香り米の比率です。2010年段階ではベトナムのコメ輸出金額のうち白米の割合が89.8％と圧倒的でしたが、2017年には36.4％と大きく割合を下げています。



第３図　コメの輸出額（百万米ドル）

資料：ベトナム統計総局ウェブサイト。

第１表　コメ輸出量の品種別割合（％）

	2010	2017	2023
白米	89.8	36.4	37.2
もち米	2.0	23.5	9.8
香り米	3.7	29.0	42.5

資料：2010年・2017年はDoan Thi Thu Huong et al.（2022），2023年はAgromonitor（2024）.

それに対して、もち米が23.5％、香り米が29.0％、と大きく伸ばしています。2023年には、もち米は9.8％と割合を下げましたが、香り米はますます大きくなり42.5％と今や白米より多く輸出されています。

ベトナムにとって中国はもち米の最大の輸出先ですが、中国向けの香り米輸出の増加に伴い近年はやや割合を落としています。なお2023年時点で、ベトナムから中国へ輸出しているコメの約６割がもち米、約３割が香り米です。

香り米の最大の輸出先はアフリカであり、2023年でベトナムの香り米総輸出量の33％を占めます（全品種の輸出量では16％を占めます）。またアフリカから見ると、ベトナムからのコメ輸入の83.2％が香り米と圧倒的な割合です。ベトナムからアフリカへの香り米の輸出が多い理由は、欧米や中東への香り米輸出はインドなどが先に進出しており、新たに香り米輸出をしたいベトナムにとっては、まずは安い市場から進出したということでしょう。

4．おわりに

同じく国際米価が高騰したにもかかわらず2023年のベトナムが2008年のような輸出規制を行わなかった背景は、上記の２時点の間に生産が急増して国内の余裕があったことと、輸出するコメの品種を白米のみから香り米等の多様化に成功したことがあります。

ベトナムは今後さらにコメ輸出量・輸出金額を伸ばす見込みであり、引き続き注視が必要です。

（注）この「食糧」とはコメ・トウモロコシ・イモ類等のデンプン質を豊富に含む主食物を表すベトナム語 “luong thuc”の訳であり、食料品全体ではありません。

引用文献

Agroinfo（2009）『2008年度のベトナム稲作部門及び次年度の展望に関する年次報告』（ベトナム語）

Agromonitor（2010）『2009年度のベトナム及び世界のコメ及び次年度の展望に関する年次報告』（ベトナム語）

Agromonitor（2024）『2023年度のベトナムのコメ及び次年度の展望に関する報告』（ベトナム語）

Doan Thi Thu Huong, Pham Quang Dieu, Dao The Anh（2022）Market Structure of Rice Export in Vietnam from 2010 to 2020, The Food and Fertilizer Technology Center for the Asian and Pacific Region（FFTC）